

令和3年度第1回ISO上層委員会報告会

第114回 ISO理事会 報告



一般財団法人日本規格協会
システム系規格開発ユニット
中川 梓

ISO Council (理事会)

◆ ISO理事会とは

- ISOの中心となる統括組織
- 構成：ISOメンバー機関代表20名、ISO役員、政策開発委員会議長 (CASCO、COPOLCO、DEVCO)
- 議長：ISO会長または副会長(政策)
- 年3回の会合
- 財務監事、TMBメンバー、政策委員会議長の指名

◆ 理事会メンバー機関

グループ1

AFNOR(仏)(2023)
ANSI (米)(2023)
BSI(英) (2022)
DIN(独) (2023)
JISC(日)(2022)
SAC(中) (2022)

グループ2

ABNT(ブラジル) (2021)
KATS(韓) (2022)
SCC(カタ) (2022)
UNE(スเปน) (2021)
NBN (ベルギー)(2023)

グループ3

ESMA(アラブ首) (2022)
IRAM(アルゼンチン) (2021)
SOSO(サウジアラビア) (2022)
DS(デンマーク) (2023)
SABS (南ア)(2023)

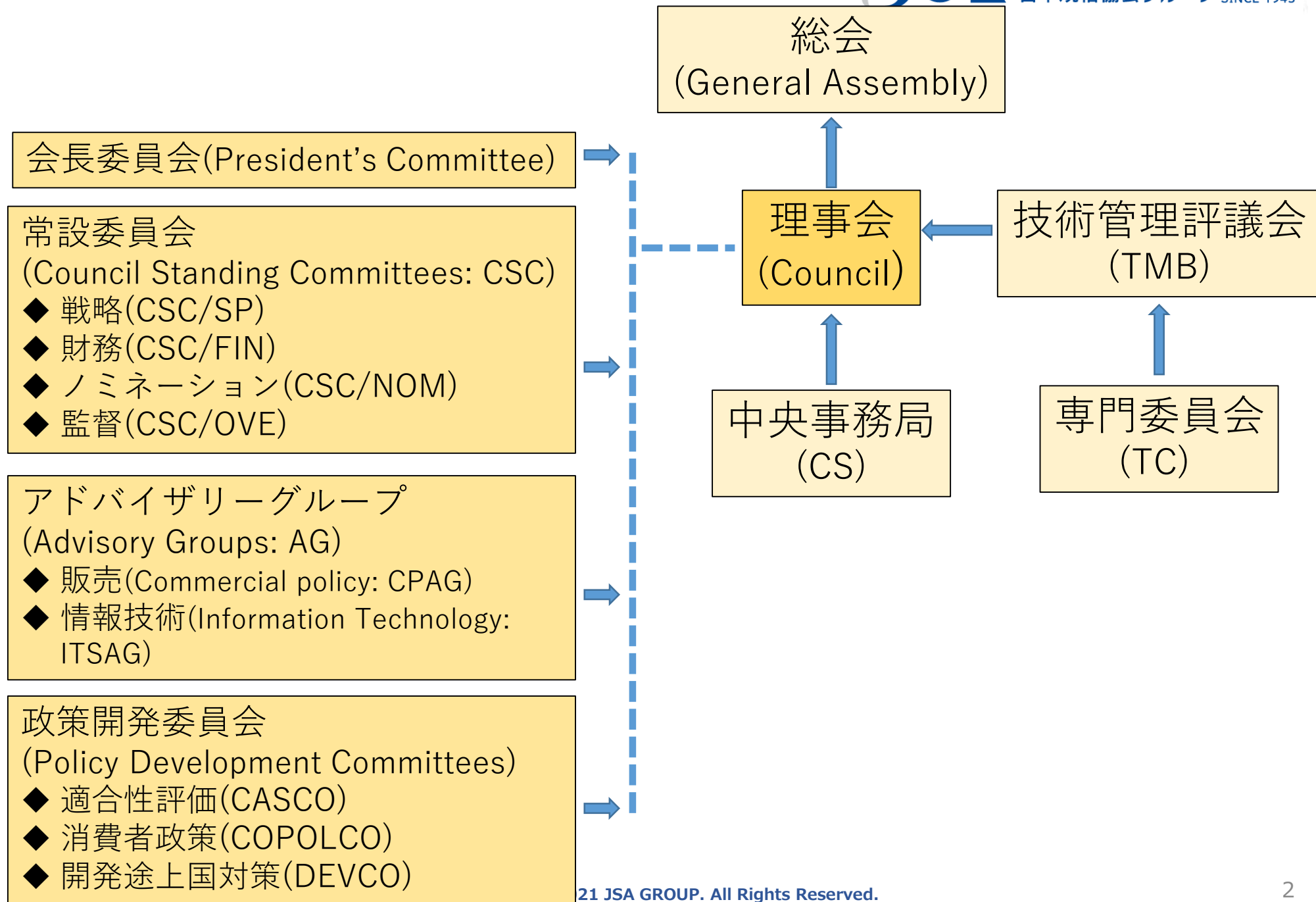
グループ4

HZN(クアチア) (2021)
INACAL(ペルー) (2022)
IBNORCA(ボリビア)(2023)
SAZ(ジンバブエ)(2023)

ISO Council (理事会)



標準化で、世界をつなげる。
JSA GROUP
日本規格協会グループ SINCE 1945



第114回 ISO理事会 及び 関連会合

2021年2月17日	
08:30-10:30(日本時間：16:30-18:30)	会長委員会
2021年2月18日	
11:00-12:00(日本時間：19:00-20:00)	CSC/NOM
14:00-15:30(日本時間：22:00-23:30)	CSC/OVE
2021年2月19日	
12:30-15:30(日本時間：20:30-23:30)	CSC/SP
2021年2月22日	
12:30-15:30(日本時間：20:30-23:30)	CSC/FIN
2020年2月23日	
12:30-15:30(日本時間：20:30-23:30)	理事会ワークショップ
2020年2月24-25日	
12:30-15:30(日本時間：20:30-23:30)	理事会

第114回 ISO理事会

- 理事会及び常設委員会の会議が、2021年2月17日から25日にかけて、ウェブ会議で開催された。
- 理事会は議題数を考慮し、2日間にわたって開催された。
- 時間的な制約等を考慮し、議事を重要/緊急の項目に絞り（カテゴリB）、会議中は議論/確認のみとし、決議は行わず、後日電子投票を行い、正式に決議する。その他の項目(カテゴリA)は情報提供のみ、あるいは必要な場合、電子投票を行う。
- 本資料では、理事会での主な議論、決議事項をご報告する。

議題2～COVID-19の影響及び事務総長報告

<主な報告事項>

■ COVID-19の影響/対応

- TCやガバナンス活動への影響
- ロンドン総会（2021年9月）
- ISO/CSの事業継続と財務
 - ISO 22301:2019に基づく事業継続計画（BCP）を実施
 - Minimum Viable Level of Service (MVLS)という考え方で、必要最低限の活動以外に支出を凍結
 - CSスタッフはテレワーク。メンタルヘルスが優先事項

■ ISO戦略2030

- <https://www.iso.org/strategy2030.htm>
- 測定枠組み、実施計画の策定
- コミュニケーション計画

■ 主な活動

- 地域グループの会合へのウェブ参加、COPOLCO総会、DEVCO会議等への参加
- 他の国際組織との関係強化、特にIEC

議題3.1～ISO/CS予算の2021年予測

<2021年予測>

kCHF

	2021年予測	2021年予算	差異	2020年実績	2019年実績
収益	40,923	39,098	1,825	40,852	43,157
費用	-38,513	-39,098	585	-35,744	-39,302
剰余	2,410	0	2,410	5,108	3,855

- COVID-19の影響が2021年中も継続するとして、予測
- 2021年予算に対し、収益4.7%増、支出1.5%減の予測

<主な意見>

- 人件費の増加（新規雇用）に関し多数コメント。誤ったメッセージになりかねない。慎重であるべき
- 「警戒感のある楽観姿勢（cautious optimism）」をとるべき。守りに入りすぎる必要はない
- 優先順位付けをした段階的な採用を行う（6月理事会で計画を報告）

（決議10/2021）

議題3.2～キャパシティビルディング資金調達

<背景>

- 発展途上国のISOメンバー支援の重要性
 - ISO戦略2030の優先事項の1つ、「キャパシティビルディングを通じてISOメンバーを強化する」
- 発展途上国に対するキャパシティビルディング
 - 5か年計画（APDC）に基づき発展途上国のキャパビル支援。2021～2025年は4期目（APCD4）
 - コロナ禍でデジタルツールの活用が進んだことを受け、バーチャル、バーチャル&対面の混合の2つのやり方でキャパビルを提供する
 - 支援団体からの資金とFund in Trustへの拠出で運営しているが、2023年以降の資金調達が不透明

<主な報告、意見>

- 今後5年間の活動を支えるため、支援が期待できる国際団体等へさらにアプローチする必要がある
- 支援団体拡充のため、資金調達戦略ポリシーを作成し、理事会に諮る（6月）

議題3.3～ISO POCOSA 2017 の附属書 7 および 8 の改訂

<背景>

- CPAG WG2で、規格が現在どのように利用されていて、現在/将来の課題、ニーズにどのように対応すべきかを議論
- ISO POCOSA 2017の附属書7及び8の改定を提案
 - デジタルフォーマットの多様化、規格利用の場所が多様化、ソフトウェア開発組織による利用
 - 著作権料の計算方法を改定（場所+同時アクセス数の計算に加え、人数による計算を追加）

<主な報告、意見>

- 新しい計算方法により、ISO/CSの財務にマイナスの影響がないことを確認する必要がある
- 改定を承認。2022年1月より施行し、2年間の試用期間をおく。ISOメンバーは新旧の計算方式を選択できる
- 本改訂とは別に、無料閲覧による販売促進を検討すべきではないかとの意見あり

(決議12/2021)

ISO POCOSA : ISO 出版物の頒布、販売、複製及びISO 著作権の保護に関するポリシー

附属書7 Rules for licensing ISO publications on end-user internal networks

附属書8 Rules for licensing end-users reproducing ISO publications other than for internal networks

議題4.1～ ISO地域関与ポリシー(Regional Engagement Policy: REP)

<背景>

■ ISOの地域関与活動の試み

- ISO地域関与イニシャティブ（シンガポール事務所）を設置（2013年）
- アフリカのISOメンバーを支援するパイロットプログラムを開始（2017年）。メンバー国より中央事務局に出向
- 上記を基に、事務総長が地域関与ポリシーを作成/承認（2020年9月）
 - 中央事務局に「プロジェクトマネジャー」のチームを作り、4地域（アフリカ/アラブ、アメリカ/カリブ、アジア/太平洋、ヨーロッパ/中央アジア）をそれぞれ担当
 - 地域支援専門家チームはデジタルツールを最大限に活用。地域メンバーのコミュニティとも効果的に連携

<主な報告、意見>

- 2021年は移行の年。アジア/太平洋、アフリカ/アラブ担当のプロジェクトマネジャーは既に稼働開始
- 業務計画、指標等は、各地域のニーズ、優先課題に即した内容とする
- これまでの経験を生かした活動であるべき。DEVCO等が行う他の能力開発活動との連携が重要

議題4.2 ISO IT戦略2021-2025

<背景>

- ISO戦略2020に沿ってIT戦略2017-2020を策定し、現在のニーズ及び将来に対応する堅牢なIT環境の整備へとつながった
- これまでの経験に基づき、次のIT戦略の方向性と重要項目を特定し、IT戦略2021-2025を策定

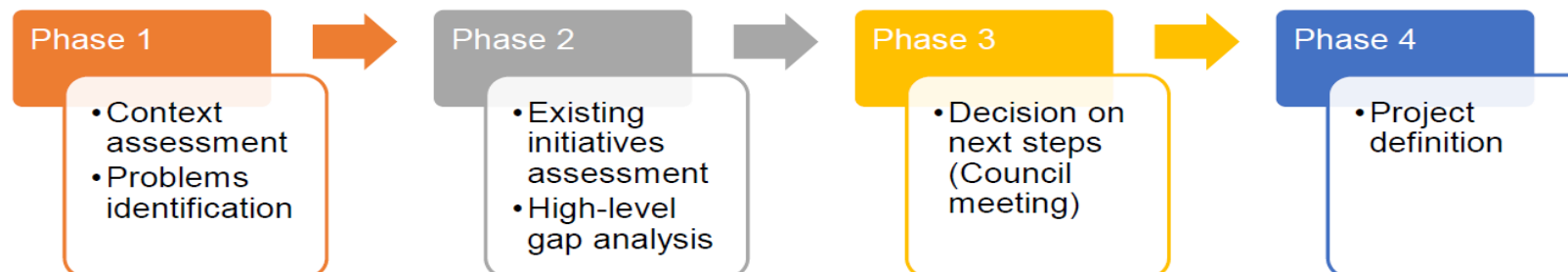
<主な報告、意見>

- 4つの戦略的方向性
 - 明日のための規格を作成する
 - SMARTへの進化を支援
 - データとコンテンツから価値を創造する
 - ISOシステムから作成されるデータ/メタデータの有効活用、規格のトレーサビリティと有効性の保証
 - ISOメンバーのデジタル能力を強化、パートナー組織との協働を強化
 - IECとのパートナーシップ強化、ISOlutionsの進展
 - ISO/CSのIT基盤とプロセスの強化
 - ITに関するコンプライアンス、セキュリティ、迅速さに焦点
- ISO戦略2030の成功はITにかかっており、IT戦略を独立させるべきではなく統合させるべき

理事会ワークショップ ISO SMART

<背景／経緯>

- 機械可読規格(Machine Readable Standard)に関するTMB戦略諮問グループを設置(2018年)。<phase1> 最終報告を理事会に提出(2020年6月)
- 最終報告では、SMART (Standards Machine Applicable, Readable and Transferable) と呼ばれる新しい種類のISO製品のあらゆる側面への影響に関し、関係者を巻き込んだ検討が必要であると提言 <phase2>
- ISOシステムへの影響の大きさを認識し、今後の戦略的方向性を検討するためのワークショップを開催することを決定(2020年9月)
- IEC等の利害関係者も招き、ワークショップを実施(2021年2月) <phase3>
- SMART Steering-Group; SMART-SG)を設置、プロジェクト計画を策定する <phase4>

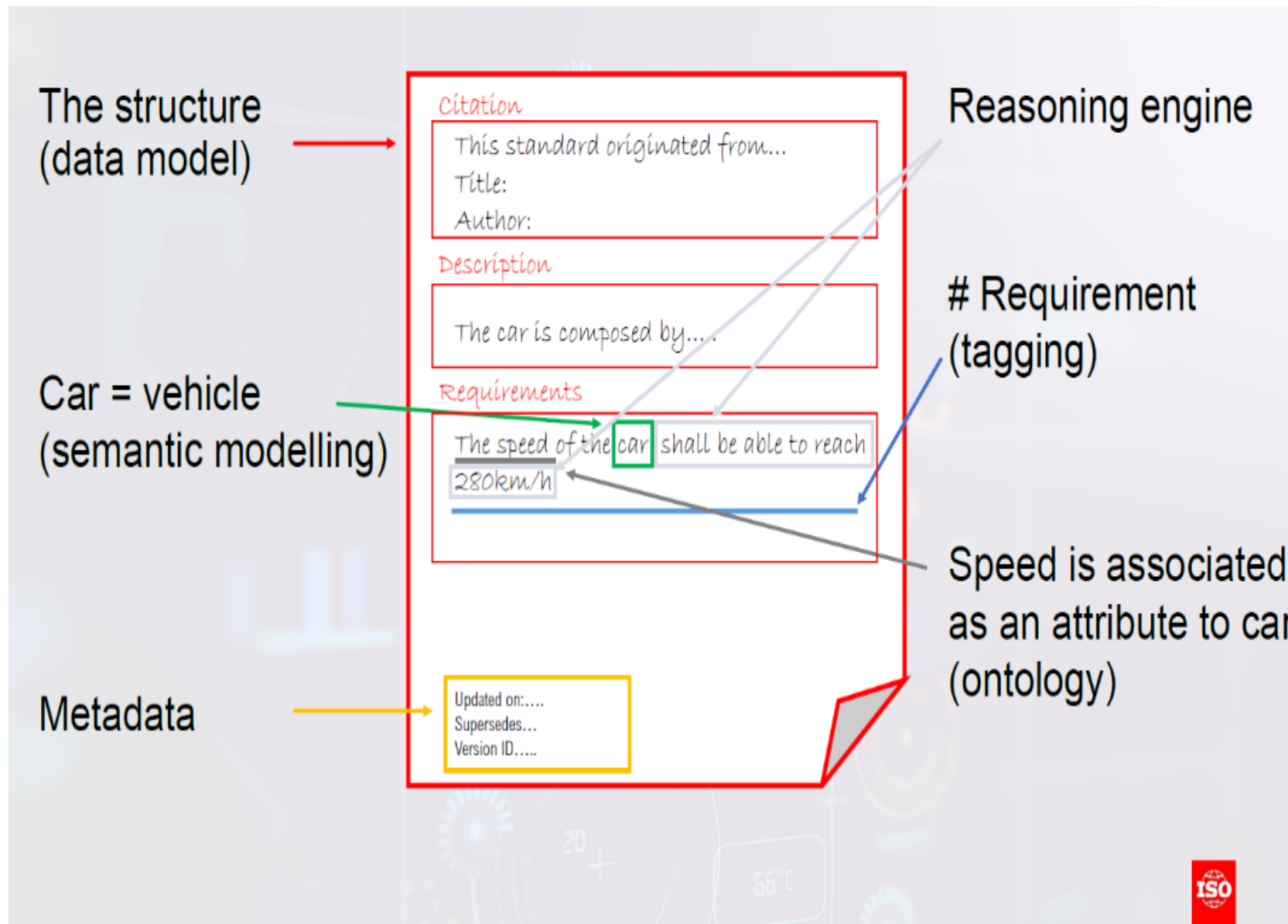


<ISO SMART>

Standards Machine Applicable, Readable and Transferable, working in the system without human effort

人的労力なしで、システム上で機能する、機械による適用、読取り及び移動が可能な規格

		レベル0: 紙	レベル1: オープンデジタル形式	レベル2: MACHINE READABLE 文書	レベル3: MACHINE READABLE コンテンツ	レベル4: MACHINE INTERPRETABLE コンテンツ
						
機械がもつ機能	基本的な検索	紙	画面上で読み、検索する	規格文書の構造化されたコンテンツ ソフトウェアによるコンテンツ処理が可能	選択的なアクセスのためのコンテンツのセマンティックエンリッチメント 特定の目的で複数の規格のコンテンツを受け取る	要素間のコンテンツとつながりを示す情報モデリング コンテンツ処理とアクセスを改善するための自己学習分析及び妥当性確認周期 バリューチェーン内での中断無しのデータフロー 質問への自動回答または予測コンテンツ供給
	機械による相互作用は不可能	機械による相互作用は不可能	機械による相互作用はほぼ不可能	単純なタグ付け 単純検索 よく構造化された文書 ソフトウェアによる文書の解析が容易にできる	タグ付けのセマンティック記述 意味があり、定義付けされた要素の高度検索 図、公式、実行コードといった要素を見つけ、処理する基本能力	オントロジーはアドレス可能要素のつながりのために存在する 機械は特定のコンテンツ内の要素を見つけ、使用することができ、同コンテンツでオペレーションを実行することができる
機械がもつ制限		機械による相互作用は不可能	機械による相互作用はほぼ不可能	検索結果または解析されたコンテンツの理解はできない	要素に脈絡を持たせるためのオントロジーが欠如している(例: 公式の発見及び使用は可能だが、これが有用であるコンテキストを理解していない)	

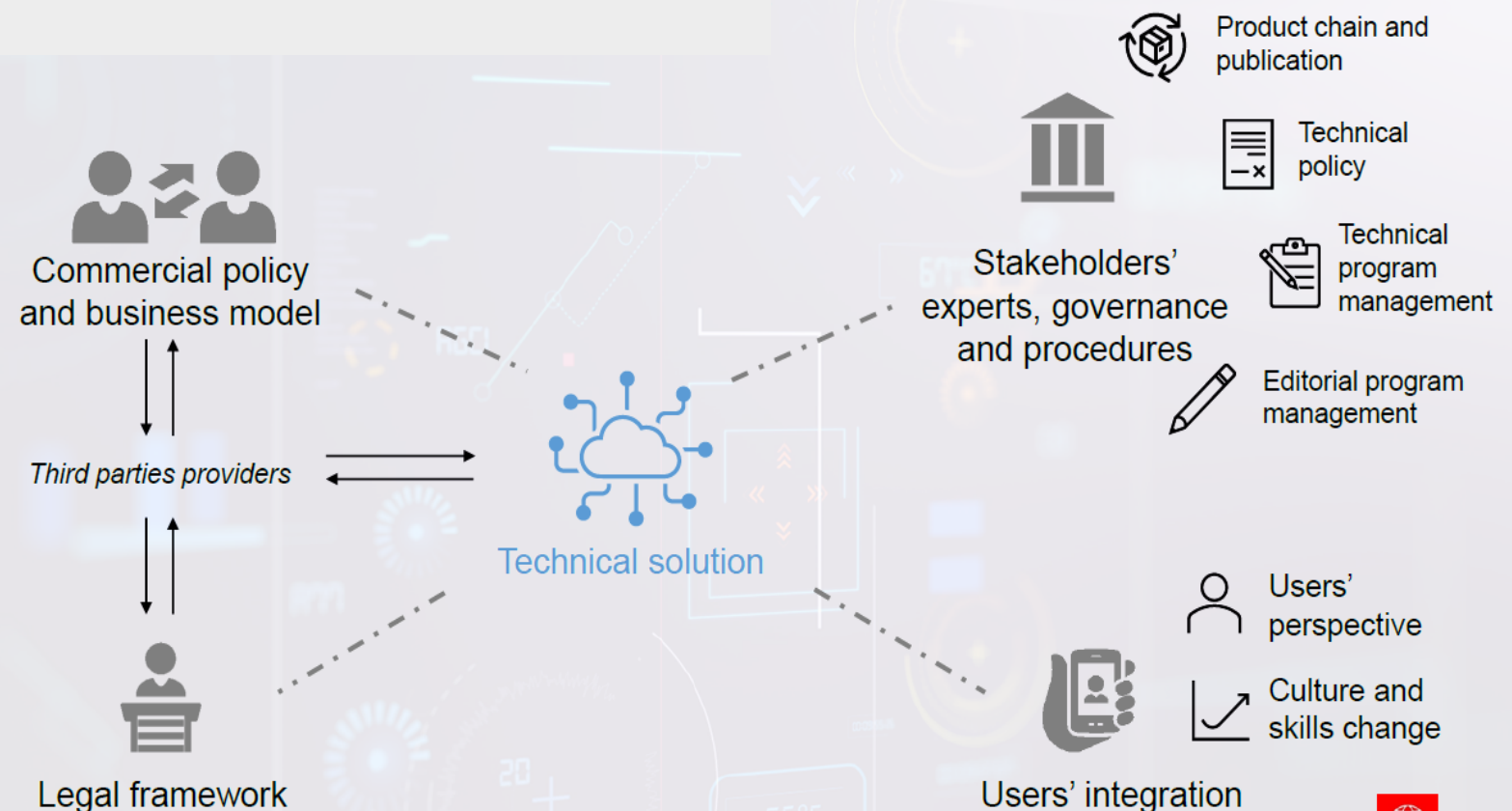




技術的ソリューションをコアとして

- ・販売ポリシー（売り方、著作権料）とビジネスモデル（第三者配付者を含む）
- ・法的枠組、製品チェーンと発行形態、
- ・専門的ポリシー、
- ・規格編集管理、
- ・ユーザ側の期待とニーズ及びスキル変更、等

ISO SMARTが影響する分野



理事会ワークショップ ISO SMART

- 参加者：理事会メンバー、ISO役職員、TMB、ITSAG、CPAGの各代表者、IEC事務局長等35名
- 目的：複雑な状況への認識、SMARTへの理解を高め、戦略的方向性を議論し、次のステップに合意する
- グループに分かれ以下を議論
 - ISOはどのように関わっていくのか？
 - ISOが積極的に取り組む分野は？
 - ISOはどのように実現するのか？
- 主な意見
 - 著作権等を含めビジネスモデルの明確化が重要
 - 各国間での調整が必要（発展途上国への対応）
 - 既存技術の活用、IECとの協働
 - ユーザーのスキルに変化が必要
- SMART Steering Groupの設置
 - プロジェクトプランを策定

ご参考～今後の予定

<理事会>

- 2021年6月8－10日 バーチャル
- 2021年9月22日 ロンドン
- 2022年2月23－24日 ジュネーブ
- 2022年6月9－10日 スtockホルム
- 2022年9月21日 シドニー

<総会>

- 2021年9月23－24日 ロンドン
- 2022年9月22－23日 シドニー
- 2023年9月20－21日 アブダビ

テーマは
The Future Has Begun

ご清聴ありがとうございました

お問い合わせ

一般財団法人日本規格協会
システム系規格開発ユニット

kokusai@jsa.or.jp